

ビブリア

在りし日の姿を伝えるために

図書館デスクから 利用状況など	2
文献検索講習会	6
福島高専アーカイブ あなたに勧める本	9 10



図書館を見つめるように置かれている像は、世界的に著名な彫刻家、佐藤忠良氏の作品、「母子想像」です。本校には同氏の作品がもう一つあります。シンボルツリー、樺の前に立つ青年の像です。青年の像は作者から本校に寄贈されたもので、1969年の秋に除幕式を行っています。この作品には、作者から、ここ福島高専で学ぶ学生たちへのメッセージが込められていることでしょう。

では、母子想像は、私たちに何を伝えようとしているのでしょうか？ そして、佐藤忠良氏と本校を結ぶものとは・・・。

母子想像は「近代化産業遺産」の指定を受け、かつて炭鉱のある町として栄えたいわきの様子（歴史）を伝えるものと認知されたました。かつての姿を、人々の記憶にあるものを記録として、次の世代へ伝えるための取り組みが行われてようとしています。

図書館デスクから ～図書館利用状況の分析～

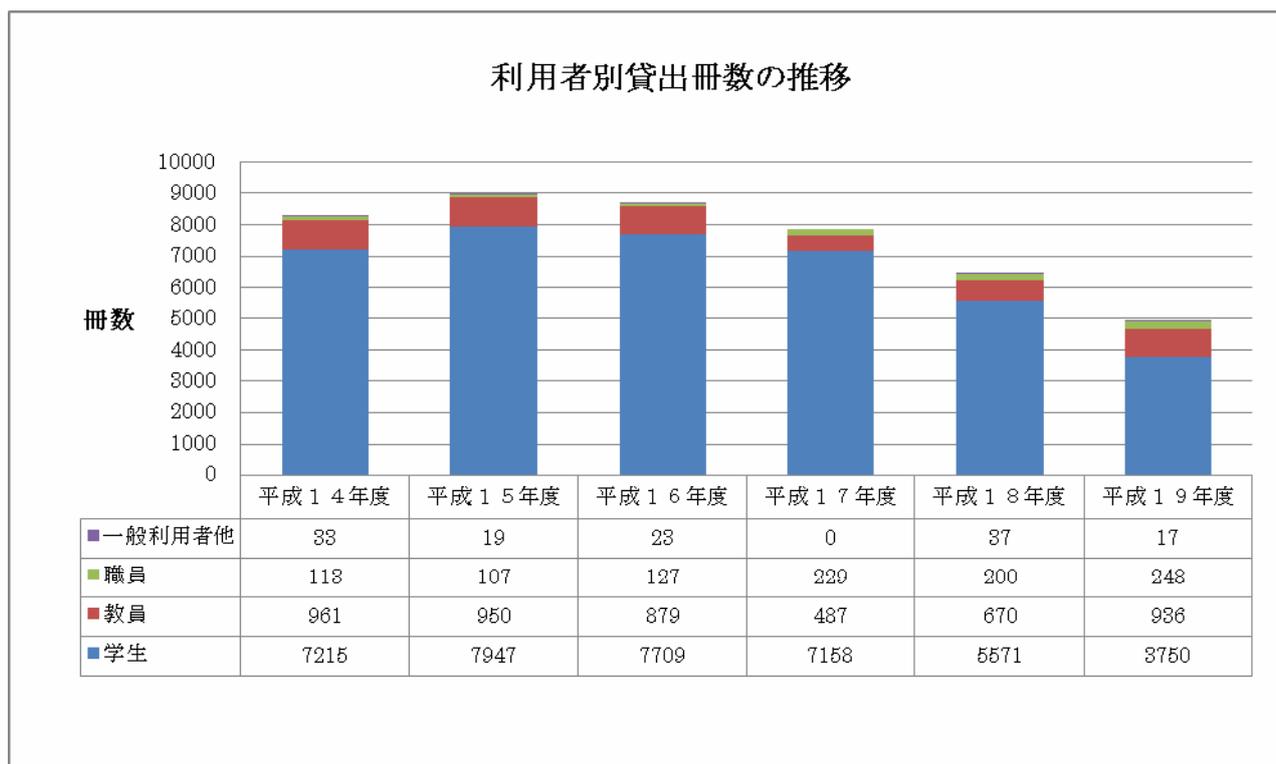
みなさんの図書館の利用の仕方はどんなふうに変化しているのでしょうか。それを探るためにデータをいくつかまとめてみました。

*:平成19年度として出されているデータは、2008年2月14日時点のデータです。)

<福島高専図書館の6年を振り返る>

貸出冊数の推移（平成14年度～平成19年度）

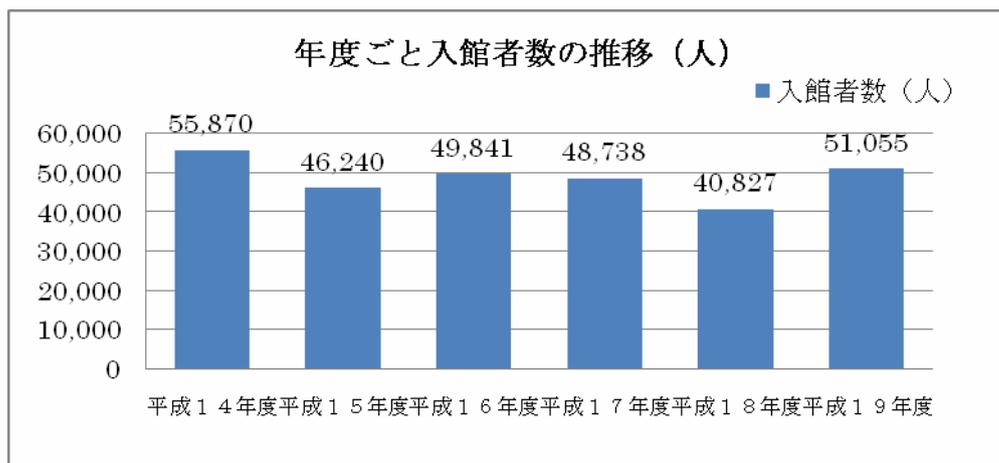
貸出冊数は、全体的に平成15年をピークに下り坂になっています。平成17年度から19年度においては、学生の貸出冊数の減少が見られます。さらに平成17年度から18年度にかけて、教員の貸出冊数も減少しています。しかし、平成17年度から19年度にかけて、職員の貸出冊数がほんの少し増加しています。



貸し出し冊数の減少は図書館の蔵書の魅力、有効性など図書館の有効性にも直結するので、何とか利用数の減少に歯止めを掛けたいところですが、かつては、調べる＝書籍だったものが、書籍からネット検索への移行が進んだこと、電子辞書の普及も少なくないと思われます。蔵書を電子化しネット上で公開するなど、本の仮想化が進められている時代ですから、貸し出し数+ α 、アルファに相当する数字を探すことは、図書館の新しい価値や進む方向へのヒントになるものと考えています。

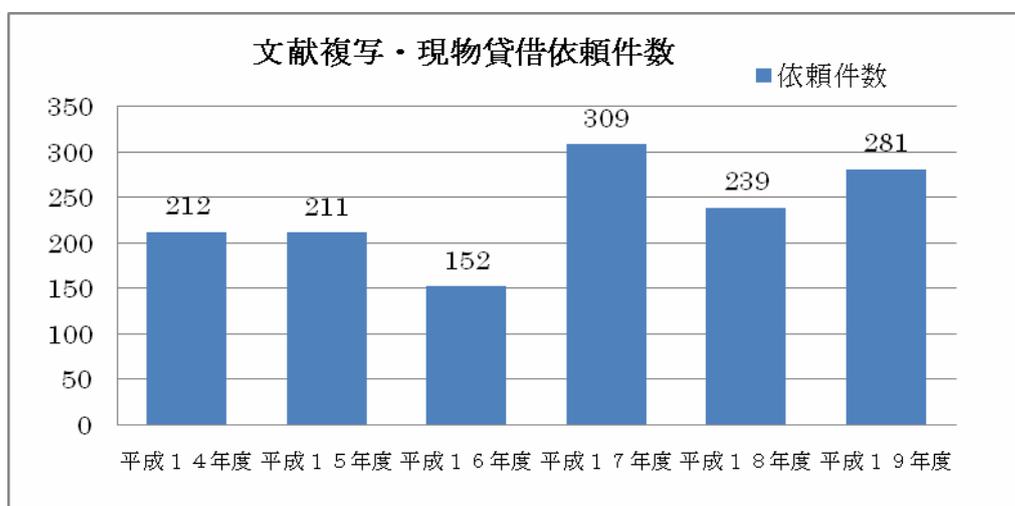
入館者数の推移

年度により増減を繰り返しています。平成18年の入館者数が少ないのは、夏季休業中の2ヶ月間、アスベスト除去作業のため図書館棟を閉鎖していた影響が考えられます。平成19年度の入館者数が前年度より1万人ほど増加した原因としては、機械工学科棟改修のために機械工学科教員の研究室が図書館棟に一時避難したことで、学生さんにとっては図書館へのアクセスがより良くなったからと考えられます。図書館で調べてごらんよの一言と実質的な距離が図書館にとってかなり重要かも。階段を上る、教室棟から離れているのがバリアーなんではないでしょうか？



文献複写・現物貸借の依頼受付件数の推移

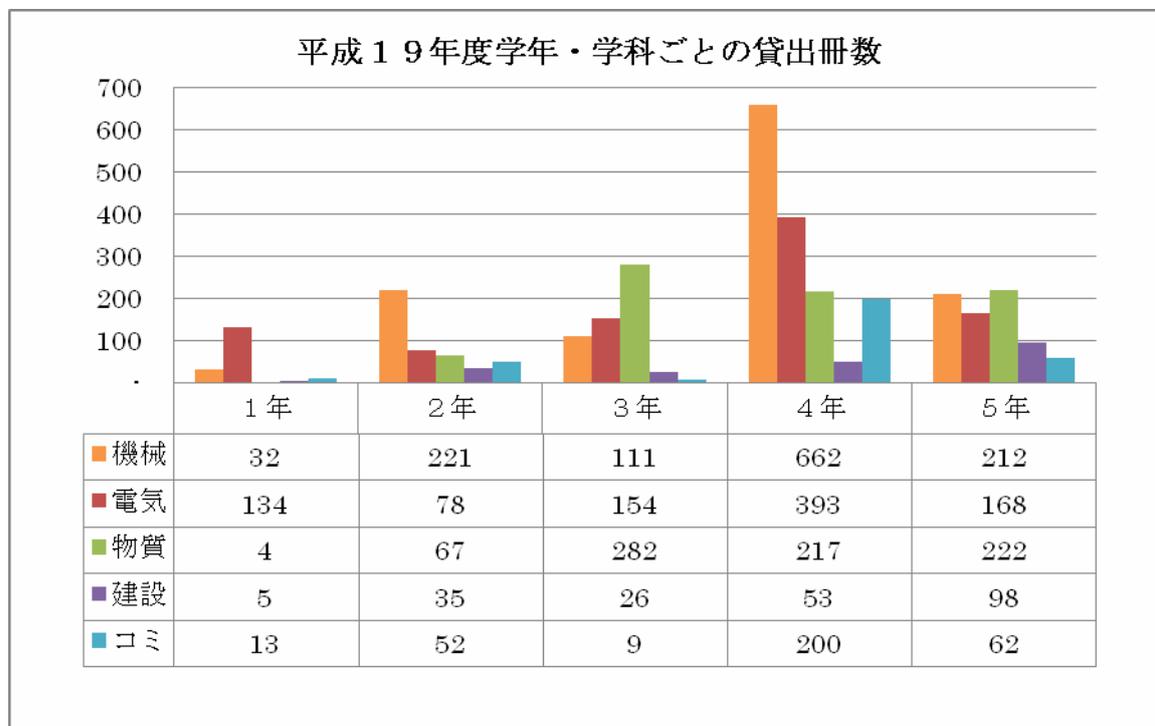
年度により増減を繰り返していますが、平成17年以降依頼件数が増加したと見ても良いでしょう。このサービスの利用者はほぼ教員ですが、特別研究、卒業研究などにも利用してもらえるように、利用方法などをアピールしていきたいものです。電子化される情報が増えている中で紙媒体での情報の受け渡しが行われていることも忘れて頂きたいと思います。



＜平成19年度 本科学生の図書館利用状況＞

学年・学科ごとの貸出冊数

全体的に4年生の図書館利用が多いようです。おそらく、ゼミ関連の課題のために利用いただいているのだと考えられます。5年生図書館利用者がやや少ないのが気になります。



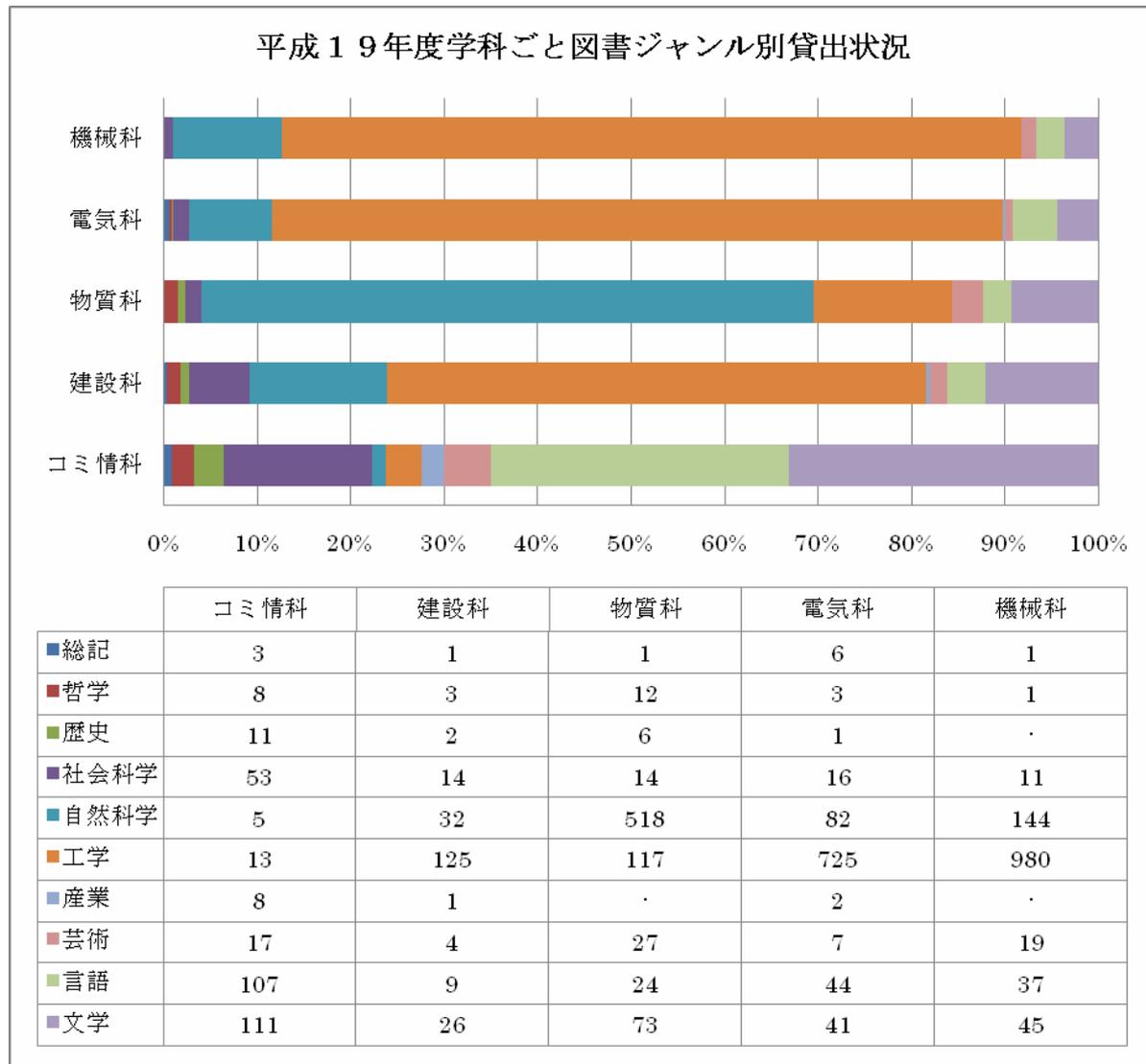
機械工学科の4年生がせっせと読んでいる本はいったいどんなものなのでしょう？ 反動のような落ち込みぶりの5年生……。その他のクラス……。貸し出された本の数であって館内利用の図書数は統計の取りようもないので、なんとも言えませんが、必要な本がないという一言に尽きてしまうのでしょうか？ 借り出し回数が多かった本をリストアップしてみると、1位はなんと分析化学の統計の本で、4Mの読書傾向を示すものはCAD, CAM・・・？

TOEICという文字も見えて、図書の利用が学校内の様子が反映されていることもわかります。

平成19年度（集計期間：2007年4月1日～2008年2月14日）

順位	貸出回数	書名,巻次,叢書名	著者名
1位	10回	データのとり方とまとめ方 分析化学のための統計学	J.C.Miller
2位	9回	ガス溶接入門 第2版 溶接の入門シリーズ	水野政夫 [ほか]共著
3位	8回	水理学 新編土木工学講座 ; 12	細井正延
3位	8回	電気電子計測 大学課程	山口次郎 [ほか]共編
3位	8回	定本OPアンプ回路の設計 再現性を重視した設計の基礎から応用まで	岡村勉夫 著
6位	7回	TOEICテスト実践講座 標準総合	ECC 編
6位	7回	電気機器各論 第3 同期機 電気学会大学講座	電気学会通信教育会 編
6位	7回	CAD解説 その導入のために	樋口登志男
6位	7回	CAD/CAM入門 導入計画と運用テクニック	朝比奈奎一 著
6位	7回	実用オペアンプ回路	角田秀夫 著
6位	7回	図解電気計測	佐藤一郎 著
6位	7回	トランジスタの実用回路入門	富山忠宏 著
6位	7回	環境計量士試験濃度・共通徹底研究 なるほどナットク!	平井昭司 ほか著

実態をつかむために、分野別の数字を取り出したのが、下のグラフです。各学科の傾向が読み取れるものと思います。全体を100として傾向を捉えることはできませんが、図書館として気にしているのは、ジャンル別の割合よりも利用数の減少です。



18年度の図書利用結果を引っ張り出して比べて見ると、その年、その年で傾向があるのかもしれませんが

平成18度（集計期間 2006年4月1日～2007年3月31日）

順位	貸出回数	書名,巻次,叢書名	著者名
1位	17回	環境計量士試験「濃度・共通」精選問題集 なるほどなっとく!	三好康彦 著
1位	17回	環境計量士試験濃度・共通徹底研究 なるほどナットク!	平井昭司 ほか著
3位	16回	環境計量士への近道 上	
4位	12回	バイオ試薬調製ポケットマニュアル 欲しい溶液・試薬がすぐつくれるデータと基本操作	田村隆明 著
4位	12回	アミノ酸とタンパク質のはなし	軽部征夫 著
4位	12回	リニアICによるオペアンプの基本と応用	角田秀夫 著

文献検索講習会 電子ジャーナル利用講習会

昨年10月～11月にかけて、「文献検索講習会」を下記の日程で実施しました。

- ・2007年10月12日(金)14:50～16:20
建設環境工学科4年生 38人 (情報基礎演習室)
- ・2007年10月15日(月)8:50～10:20
物質環境専攻科1年生 5人 (情報コミュニケーション演習室)
- ・2007年11月7日(水)13:00～14:20
電気工学科4年生 38人 (情報コミュニケーション演習室)
- ・2007年11月13日(火)14:50～16:20
コミュニケーション情報学科4年生41人 (情報コミュニケーション演習室)
- ・2007年11月14日(水)13:00～14:30
機械工学科4年生 38人 (情報基礎演習室)

これまでの講習会の参加者数を表にまとめてみました。延べ3669名の学生さんたちに向かって説明をしてきたこととなります。探し方のテクニックを知っていれば、いろいろメリットがあります。より効率よく情報を探し出して利用していただきたいと思います。

表 図書館利用講習会の参加者数

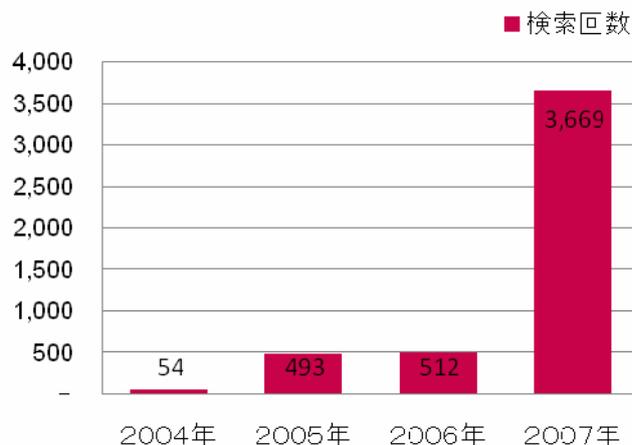
	2004年	2005年	2006年	2007年
1月		43	101	25
2月		8	23	6
3月		5	12	77
4月		1	14	30
5月		17	28	152
6月		7	30	13
7月		18	96	9
8月		91	86	49
9月		44	25	247
10月	28	115	38	554
11月	19	65	56	2081
12月	7	79	3	426
合計	54	493	512	3669

これから、この講習会の成果について分析し、さらに各データベースや電子ジャーナルの利用状況を振り返り、これらを活用してもらうためにはどうしたら良いか分析してみます。

J-Dreamについて

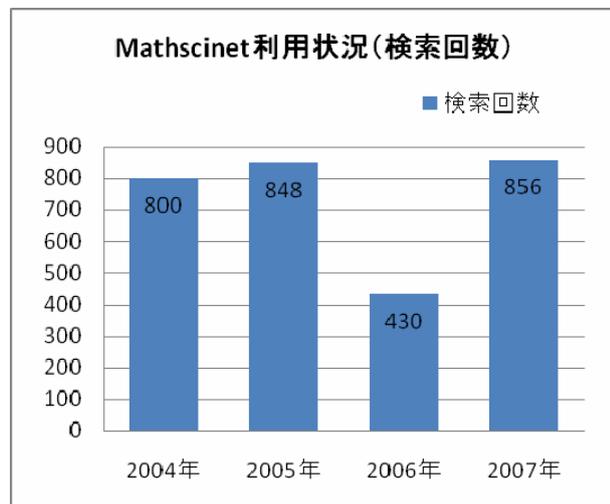
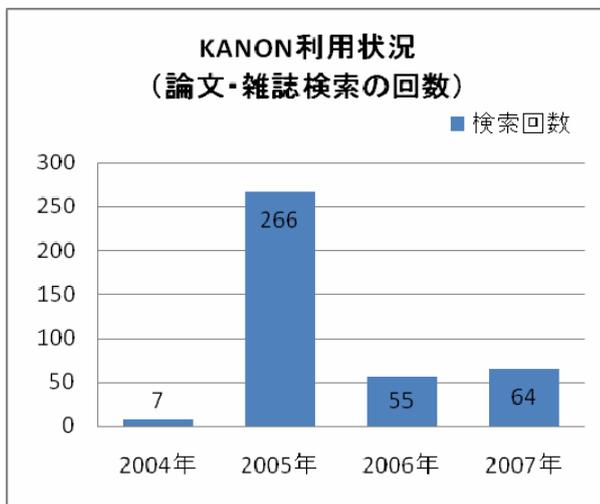
07年の利用数（検索回数）は、前年の7倍以上になりました。昨年12月の利用数は426回でした。検索回数が多いのは、10月後半から11月にかけて本科2年生の「社会科学調査法」でJ-DreamⅡが情報検索として取り上げられたためです。

J-DreamⅡ 利用状況(検索回数)

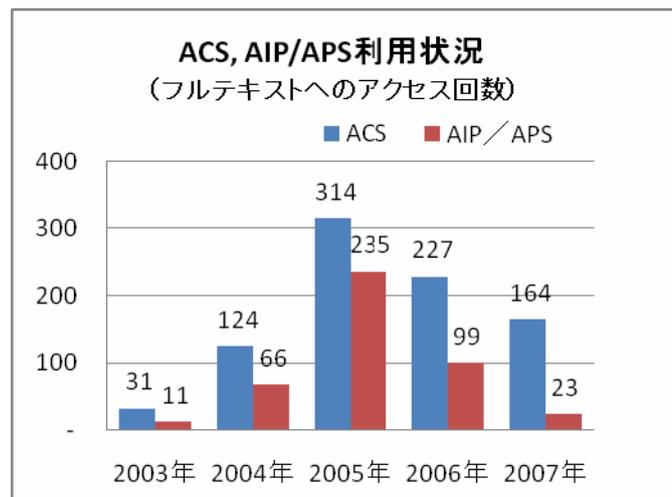
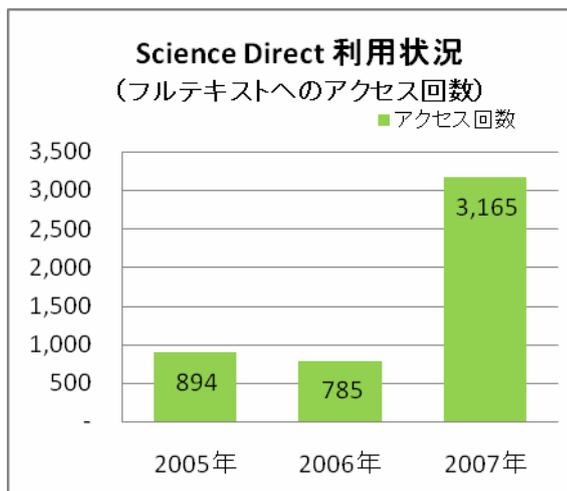


本校で利用できる文献検索データベース

データベース名	J-Dream II	KANON	MathSciNet
収録分野	国内・国外の科学技術分野	全分野	世界の数学関係の文献
収録資料	科学技術系のジャーナル、学会誌、協会誌、技術報告等	全世界で発行されている外国雑誌約16,000誌分の目次情報	約1800タイトルのジャーナル、多数の書籍・会議録・論文の書誌・抄録情報、Mathematical Reviewsに掲載されたレビュー
収録データ数	4,500万件		
収録範囲	1975年～		1940年～
提供機関	科学技術振興機構(JST)	長岡技術科学大学	American Mathematical Society (AMS)
特徴	外国文献でも、日本語で内容を知ることができる。	高専と技大で契約している電子ジャーナルとのリンク機能	Mathematical Reviewsに掲載されたレビューがある。AMSおよび他の出版社の原文献へのリンクあり。
本文リンク	一部あり	一部あり	一部あり
論文の概要	あり	なし	あり



KANONは、検索機能、キーワード登録などが利用できる目次情報データベースですが、本校の購読雑誌との整合性が取れないため、本文へのアクセスが限定されてしまうことが多く利用度が落ち込んでいます。それに対してMathSciNetは数学に限定したデータベースであること、抄録が利用できるなどメリットが多くコンスタントに利用されていることがわかります。



電子ジャーナルの利用状況

Science Directは、2007年の利用回数が以前の年より4倍近く増加しています。原因を調べたところ、2007年8月に土木関係のジャーナルへのアクセスが2,209件あったことが分かりました。一方、ACS、AIP/APSは、2003年からの3年間は利用回数が右肩上がりに増加し、2005年をピークに利用回数は減る傾向が見られます。

電子ジャーナル類をより有効に利用してもらうために、学生向けの講習会に加えて、研究情報の収集や調査にも利用していただけるように教職員向けの利用講習会の開催を計画したいと考えています。(図書係)

SFが輝いていた頃

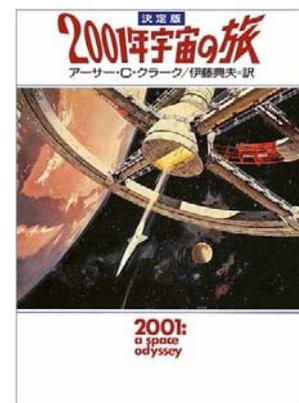
タイムマシンに乗り込んで、未来へ行く、そこで書かれていた未来は、1995年のアメリカだった。21世紀の人類は宇宙へ飛び出して行くのだが、そこでは知性を持ったコンピュータとの戦いが描かれていた。こう書いている時間は、本に書かれている未来よりも先になってしまった。未来が過去となってしまったSF小説というのは読まれるのだろうか。未来は明るいばかりではなかったが、作品に描かれた世界に引き込まれていった。SFがSFとして輝いていたのは、20世紀だったからなのだろうか？

サー・アーサー・C・クラークの訃報が届いた。90歳だった。彼の代表的な作品といえば、『2001年 宇宙の旅 2001: A Space Odyssey』、『幼年期の終わり Childhood's End』、『宇宙のラン



デブー Rama』などが出てくるだろう。100冊以上のサイエンスフィクション、フィクションを世に送利出した偉大な作家であり、科学と人類の未来について驚くべき見識を持った人物だった。静止衛星の概念を考案したことで知られる人物でした。

2001年宇宙の旅は、1968年に映画化されました。映画化されて40年、監督として手腕を振ったスタンリー・キューブリックの生誕80年という年に、原作者の訃報が重なりました。ツァラトゥストラはかく語りき、美しく青きドナウなどの音楽と映像技術は、40年という時間を感じさせない美しさと思想、哲学を感じるはずです。この映画は1969年にアカデミー賞を受賞しています。



福島高専アーカイブ

1. 研究紀要の公開について

福島高専の取り組みが学位授与機構による機関認証、日本工学教育認定機構JABEEから技術者教育プログラムの認定などで評価されています。このための取り組みとして様々なことが行われていますが、教育・研究活動の記録として、研究紀要があります。第1号は1963年に発刊されています。紀要は長らく図書館で保管してきましたが、これらをweb上で公開します。学園紛争の影響で発行できなかった時もありましたが、それも継続の中に取り込まれ、現在に至っています。研究紀要など活動記録や研究成果の電子化の取り組みは、国立情報学研究所

(NII)などが推進していますが、遡及作業はあふれる情報の前に中々進行ません。目次だけの公開となっているところも珍しくありません。本館では、ファクトデータ、実情報の公開を目標に取り組み、紀要の全面公開までもう少しのところまで来ています。まもなく、公開となります。これは福島高専の有する知的情報であり、貴重な資料です。

1963年 1号		
1.夏目漱石の文体一とくに対句の使用について		
2.藩政確立期の定期市一南部藩の場合		
3.郡山市における工業生産の推移		
4.The Grapes of Wrath	1968年 5号	
5.超関数における	1.日本における全国新聞の地方版設置と全国新聞の成立—新聞産業の地域的展開—	原田栄
6.光弾性による焼	2.円の直径を求める問題の解法	佐伯伸雄
7.光弾性による焼	3.福島県の算額について(4)	佐伯伸雄
8.接合材応力の光	4.種数おぼえがき	鈴木行雄
9.鉱山選鉱廃石を	5.パスカルの3角形を成分に持つ行列について	加藤明史
10.気相反応による	6.パスカルの3角形とピュタゴラスの形象数	加藤明史
	7.応用物理実験について	米沢茂美
	8.教育課程の研究—物理と周辺科目—	米沢茂美
	9.EXCITATION OF PLASMA ELECTRON OSCILLATIONS BY ION ACOUSTIC WAVES	天岸祥光
	10.Prosiopesisについて(2)	大滝真
	11.Richard Crashawの宗教詩における神秘思想	岩淵悟
	12.含Cr高マンガン鋼の塑性変形に関する研究(第1報)	佐藤顕二
	13.薄膜状二次電子放射材料の δ - V_p の測定(I)—無電解めっき法による銀薄膜—	岩間一郎
	14.電子流のエネルギー分布測定装置—電子軌道の解析(Ⅲ)	岩間一郎
	15.二酸化鉛法による大気中のイオウ酸化物の定量	江田静男

2. 図書館報の公開とそれにつづくもの

ビブリアは昭和46年から発行され、現在104号を数えています。これらは図書館の歩みであり、図書館を利用してきた学生、教職員の様子を伝える貴重な本校のオリジナル資料です。これらも紀要に次いで公開する予定です。その時代、その時々によどのような本が読まれていたのか、それを読ませた時代とは・・・今だから理解できることもあるのではないかと・・・。

紀要、図書館報は、そのときの福島高専の姿を反映したものです。その視線で資料を評価すれば学園通信(学校便り)、学生新聞、公開講座の資料・・・果てはシラバスまでも、本校の歴史の一端を担う資料となります。これらを電子化して収集し、蓄積することで本校の電子アーカイブの構築となるでしょう。目指すは機関リポジトリの継続的な構築ですが、ゆっくり確実に進めて生きたいと思えます。

図書館の最新情報は、図書館のwebサイトでご覧下さい。

あなたに勧める本

『コスモス・オデッセイ 酸素原子が語る宇宙の物語』

ローレンス・クラウス著 はやしまさる訳

この本を読むことになったきっかけは、いわき明星大学で開かれた『カミオカンデとニュートリノ天文学』という講演です。会場は300人を越える人が集まりかなりの熱気を感じました。講師は小柴先生の共同研究者であった宮野和政先生（新潟大学名誉教授）。カミオカンデと聞けば、あのノーベル賞を受賞した小柴先生がどうしても前に出てきてしまうのですが、講演で、カミオカンデが小柴グループの研究活動のためにあったのではなく、世界中の研究者に測定データの提供していたこと。観測データの共有化に時間と距離の同時性を解決したのはインターネットの存在だったことなど、とても興味深い内容でした。インターネットを介して世界中の研究者が、いつか飛び込んで来るはずの（いつ飛び込んでくるかわからない）ニュートリノを逃すまいと準備し、検出しようと待ち構えていたこと。世界中の物理学者たちの熱意、競争、協力・・・真っ当な話にすごく感じるものがありました。新潟から筑波へ移動する際に何度もいわきを通して、いわきに住むようになったという宮野先生のエピソードなども聞くことができました。

そのようなつながりで、この本を紹介します。この本はスーパーカミオカンデから始まります。カミオカンデの検出感度を大幅に高めたものがスーパーカミオカンデです。この施設の目的と構造を簡単に書いてしまうと、超新星から放出されるニュートリノという粒子を検出するために、地下1000mに50,000トンの超純水を蓄えた巨大なプールを作ったと書けるでしょう。ニュートリノの性質を予測した小柴先生たちは、宇宙の彼方から飛んで来るニュートリノが水槽に飛び込めばチェレンコフ光を放出すると考え、その光をキャッチするために11200個の検出器（光電子増倍管、略称フォトマル）をプールの壁に埋め込みました。

この巨大な地下プールを満たす水は、水分子の集合です。水は酸素と水素からできていて、1個の酸素原子と2個の水素原子が電子を共有して分子を作っていることは、化学の教科書にも書いてあるし、もう誰もが知っているすごく当たり前のことですが、カミオカンデの地下プールで行われた観測から宇宙のでき方や構造を考える上で重要なデータを確認できたのです。宇宙の始まりから酸素原子の誕生までを説明しようというのがこの本というわけです。

水という物質は不思議な現象を私たちに見せてくれるのですが、それに気づくかどうか、「キー」なのだと言者は語ります。1827年、スコットランドの植物学者ロバート・ブラウンは、花粉の微粒子を顕微鏡で観察していました。花粉塊を崩すために水を一滴加えると、花粉は何か突き動かされたように、全くランダムに運動することにブラウンが気づきました。どうしてこんな動きをするのか？理由は全くわからなかったのですが、水中で起こる粒子の無方向性の運動を発見者のブラウンに因んで、ブラウン運動と名付けられています（テストに出るくらい有名ですね。）。どうしてこのような運動が起きるのか、その原因は自然界の未解決の問題とされていましたが、1905年にアインシュタインによって、ブラウン運動について研究結果を発表しました。アインシュタインはブラウン運動は分子同士のぶつかり合いだとし、その動きを精査すれば、一滴の水の中に含まれる分子の

あなたの話はなぜ「通じない」のか

コミュニケーション能力が注目されている。あの人は話がわかるとか、あの人は大丈夫という評価はそういう能力の評価だとも思う。コミュニケーション能力、人の話が聞けて、話ができる。そして、自分の考えを相手に伝えることができる能力、ごく当たり前の話なんだけれど、どうしてなかなかこれが上手くできません。世の中、この能力に不安を感じている人が多いので、実にたくさんの本が売られています。コミュニケーション技術をどう高めるか・・・なんて具合に。でも、この本は、そういうマニュアル的な対応ではダメで、視点を換えて取り組みましようとしています。そこで、いくつか例を示して、肝心なのはこれだとポイントを絞って説明してくれています。（著者も断っていましたが、この本を読んだだけで、話が通じるようにはなりません。この断り書きに私は少なからずがっかりしました。）

自分の思いを相手に伝えるために、大切なものとして著者は「メディア力」、「共感」、「情報占有率」3つの項目を挙げています。著者のいうメディア力とは、話をする人自身の信頼性のことです。つまり、「何を言うか」も重要なのですが、「誰が言うか」が聞く側にとってはすごく意味がある。話をしている人のブランド力。もっとはっきり書けば、「好きな人の話は良く聞けけれど、嫌いな人の話は聞くのも嫌」という当たり前だけど、何ともショッキングな一言に尽きてしまうのです。（読んで激しくガッカリしました。）でも、優しい著者はそのメディア力を高めるための方法まで示してくれています。常日頃から、自分の聞いてもらいたいことを聞いてもらえるようにすること

が大切だ、というのです。（これができたら苦労はないって思うのは、メディア力のない証拠か？）信じてもらえるように努めるのが重要というので、普段こそ大事という息の抜けない日々が続くのですが、キャラクターを忘れずに、努力によって自身のメディア力を高めていくのです。それができたら、次は相手との「共感」を目指した伝え方に話が進みます。

「論理」、「正論」で相手を「説得」することは、相手より上の目線に立った発言と感じさせ反感を呼び、話はわかったけど、賛成できないというねじれた状況に陥りやすい、感情に走らせてはいけないと著者は続けます。でも、この辺りに関しても、思い当たる点が多々あることに気づきます、まあ、性格的なものも影響するかな メディア力とキャラクター・・・とまた、がっかりしながら、読み進みます。

最後の「情報占有率」は自分のメディア力に影響することが書かれていました。初対面の人にとって、自分に対して持つ印象は、その時点では、はじめて会った時の印象がすべてになるということです。その後何度も会う機会があれば、印象は徐々に変わっていくかも知れませんが、最初に会った時点では、その時の印象が1/1なので、すべてということになります。例えば、普段はおとなしい人が、たまたま怒っているときにはじめて会った人は、その人は怒りっぽい人だと思ってしまうということです。つまり、メディア力を高めたいならば、「情報占有率」も意識して、はじめて会った人に対しては特に意識して行動した方がよいということです。

この本は全編を通じて、ブランド力が低ければ話は聞いてもらえないので、ブランド力を高めるようにいつも気にしてないとだめで、怖そうな表情よりは優しくニコニコしているような何気ない感じも大切だよ、書いているように受け取れました。その一方で自分が伝えなければならない話を論理的に説明する技術も必要なのですが、それは、また別な本で確認する必要があります。

敵を知り、己を知らば、百戦危うからず。

要は、「聞く人を理解、知った上でのコミュニケーション」ができていなかった。

会話というのは両方に、聞く意思があって成立する。その前提となる「相手を知る」という



ことが、もっとも大事だということをこの本を通じて改めて理解したのでした。

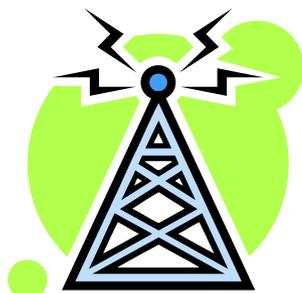
「相手を知る」ために何が必要か、説得ではなくお互いに気持ちの良いコミュニケーションを目指す「共感」が必要、響き合う何かがないとコミュニケーションが成り立たないという、思い当たるところが多い、ありがちな落とし穴を浮かび上がらせ、その対処法を書いてくれています。

あなたの話はなぜ「通じない」のか

著者 山田 ズーニー
 単行本：222ページ
 出版社：筑摩書房（2003/10）
 ISBN-10: 4480877533
 ISBN-13: 978-4480877536
 発売日：2003/10

デジタルテレビ テレビの双方向性について考えた

TVのアナログ放送は延長されず、2011年7月に停波と決まった。ノイズがない美しい地デジの画面を見ながら、天気予報など様々な情報が受け取れて便利になるのだ。ケータイでTVは当たり前になっている。もう、ハードは完璧にデジタル化OKなのだが、届く番組はアナログ放送で十分な感じだ。ノイズを消したら、番組自体が消えてしまうんじゃないかと、冷たく笑ってしまう。誰かが言った放送とインターネットの融合は、パソコンでテレビを見ることだったのだろうか？ デジタル化の恩恵とか、新しい面白さがどういふものなのかは、かなり先の話かもしれない。映画を見ながら天気予報が見えるって、映画が面白くないってこと？ 番組にコメントが出せますって、アンケートに答えさせるけど、ファックスを100台並べたり、電子メールなどコメントを読み上げて紹介しているのとどこが違うのか？ おもしろい番組にコメントはいらないでしょう。揉める話はアンケートでも賛否半々だろう。地デジの良さが良くわからない。双方向化されているデジタルテレビ番組に実装して欲しい機能は、「ニコニコ動画」のコメント機能だ。偉そうに御託を並べる占い師の顔を埋めるようにコメントが押し寄せる。激しい弾幕。視聴率という統計的な数字の意味が、はっきり目に見える形で示される。実は視聴ポイントがひっくり返るかもしれない。画面は支持よりも不支持のコメントが目立つのだ。「ヤメレ」とか「WWW」などの文字で埋まる。録画しても、きっと画面いっぱいのコメントの嵐を見るのが楽しくなるから、早送りしないで今よりも番組を最後まで真面目に見るようになるだろう。視聴率が支持だという神話が揺らぐ可能性を誰も否定できないだろう。今まで本質だと思っていた部分へのコメントはあまり寄せられずに、むしろその番組の弱さを際立たせるような形でコメントが押し寄せる。そうはいつでも、強かな業界だから画面を埋め尽くすコメントやビュー数から、こんなにたくさんの人から見られているとか、不支持は反響の大きさだと情報の変換を行ってしまうだろう。実は番組よりもCMが先に変わるかもしれない。怪しげな商品には、「これはダメだろ」「人柱品」、「超がっかり」なんてコメントで溢れるかもしれない。こうなると国会中継も今の何倍も楽しく見ることができよう。質問の時間に褒めてどうする？、そんな質問あるか。・・・真面目にや・・・。目をつぶって動かない議員の姿は分割された画面に映し出され、メイン画面には〇〇先生 いい加減様・・・など多数のコメントが寄せられる。



こうなるとTVを見ている人はTVを介するけれども内容や放送局を越えてつながっていくのだ。TVでコミュニケーションが成立する。実は双方向なデジタルTVはとっても楽しめるのかもしれない。もっとも、こんな素直なコメントは、優秀なフィルターでカットされてしまうかもしれない。あれ？ デジタル化ってそういうものか？ 批判がカットされるなら、人は無言になるのだろうか。いや、逆に誉め称えるコメントで画面は埋め尽くされるのだろうか。TVはインターネットと融合して飲み込まれてしまうだろうか。

福島高専図書館報 ビブリア

福島県いわき市平上荒川字長尾30
福島高専 図書館報編集委員会

電話 0246(46)0708 FAX 0246(46)0748
Email: tosy@fukushima-nct.ac.jp



母子想像の台座が残る内町公園（いわき市内郷）
母子想像（ブロンズ）（いわき市石炭・化石館）



戦後の復興を石炭というエネルギーの供給で支えたのが常磐炭田だった。昭和30年代前半まで、内郷地区の炭鉱がその中心だった。炭鉱の町として内郷は活気にあふれていた。全国の炭鉱で無事故期間の記録更新など、草野心平に生産の町と言わせた炭鉱とそこに働く人々の住む町があった。生産量に比例して事故が増えたが、内郷では無事故記録の更新という安全への取組が数字として表れ、内郷の保健組合が全国表彰されることとなった。その記念に何が良いだろうかと組合から相談を受けたのが、若き日の若松光一郎であった。若松は大学時代の友人でシベリア抑留から復員した後、体調を崩して創作活動に打

ち込み切れずにいた佐藤に、母子像を作ってみないかと声を掛けた。佐藤は仙台からいわきに通い、内郷を歩き、人々から話を聞き構想を練った。佐藤は、作品を置く公園で彼岸の太陽の位置を割り出し、台座の高さ、像の向きまで指示する熱心さだったという。それが母子想像であった。母と幼子は炭鉱で働く夫、父親の無事を願う姿であった。抑留を経験した作者が、家族の思いを昇華させた作品でもあろう。母子想像は佐藤忠良の初の屋外作品となった。この後、佐藤は「群馬の人」を発表し独自の彫刻の世界を築き、彫刻家と歩み出していく。その後も若松は、佐藤など数人を誘って内郷や好間、小野田という炭鉱の町を描いた。幾何学的で直線的な山や炭住は構図として、画家たちの興味の対象だったかもしれないが、佐藤たちをいわきに通わせたのは、若松の存在だった。美術学校時代の友人に会うことすらないが、光一郎さんは別だと佐藤は語っている。母子想像の建立から10年、平高専(現 福島高専)が開校し若松は、美術の非常勤講師に迎えられた。個性が絵を描かせると、学生の個性を引き出すのが彼の授業であったという。その頃、若松の技法は写実から平面に3次元の広がりを描く抽象表現に変化していた。炭鉱には陰りが見え始め、若松がコラージュを取り入れ複雑に重なる色の中にどこまでも広がる空間を表現した頃、炭鉱は終焉を迎えた。いわきを拠点にして、ひたすら描き表現の深化に取り組んだ画家、若松光一郎、彼が亡くなってから13年が過ぎようとしている。

若松先生は美術、奥様の紀志子先生は音楽の非常勤講師として、本校の教育にもご尽力下さいました。平高専のOB,OGはお二人の話を熱く語るほどです。若松先生の作品は市の美術館、アトスペース・エコリーナなどのギャラリーで見学することができます。(文中 敬称略)

参考 炭鉱(ヤマ)へのまなざし いわき市立美術館(2004)

編集後記

・次号は年度内発行、締め切り厳守で行きたいと思うと書きましたが、結果は、締め切りが伸びたので間に合ったということになりますか？

ビブリアの原稿を書くのは楽しいのですが、時間が取れません。これはすべて引越しの影響ということでお許しください。

・卒業しますので、郵送して下さい。(A)

・この前はHDDが飛んだのですが、今度はUSBメモリが吹っ飛んで気絶しました。卒論とか入ってたのに…。復活ソフトを使ってみました。こんな時には、役に立たないというのを確認しました。webサービスを本気で受けようかなと想ってます。(T)

・佐藤忠良(さとうただよし)、若松光一郎(わかまつ みついちろう)であることを初めて知りました。青年の像のオリジナルが本校図書館に展示してありましたが、現在は宮城県立美術館の収蔵品となっています。若松先生の作品は校内にも展示されています。